



入来院の総社で奉納される年越しの神舞

入来神舞は、鎌倉時代以来入来の総社である大宮神社で毎年例祭の11月23日と大晦日に、独特の神楽を奏し奉納されます。その始まりは、入来院氏の勢力が最も伸張した15世紀から16世紀前半にかけての時期といわれています。夜が更け、神社の境内にたいまつが灯る頃、祭りが幕を開けます。序盤は鮮やかな緋袴の巫女たちが、鈴と扇を仰ぎながらしめ縄を張り巡らした結界を清めます。次に現れるのは、天狗のような面を着け、燃えるような赤や荘厳な黒の衣装を身につけた鬼神です。白装束の若者たちが刀をかざしながら鬼神を囲みます。肅々と奏でられる



「十二人剣舞」では、「君が代」が朗詠されることから、入来神舞は「君が代」の起源として注目されている。

横笛、荘厳さを引き立てる太鼓の音など、しめやかな調べの中で神舞は、巫女から鬼神へ、鬼神から田の神へと次々と踊り継がれていきます。その美しい舞は優雅で、どこまでも清々しい幽玄の世界を感じさせます。地域の子どもたちも参加しながら大切に守られてきた神舞は、毎年多くの見物客を魅了しています。

【薩摩川内市 入来町】

市指定無形民俗文化財

入来神舞

鎌倉時代から続く
入来町の伝統行事
「入来神舞」を
ご紹介します。

祭りの舞台

大宮神社

開催日：新嘗祭:11月23日(金)10:00～
奉納:12月31日(月)23:30～
神舞:1月1日(火)0:00～

住所：薩摩川内市入来町浦之名7308

交通：九州自動車道・始良ICから車で25分、
JR川内駅から車で25分

駐車場：駐車場あり(無料)

TEL：0996-23-5111(薩摩川内市教育委員会文化課)

